

2014年度（2015年3月卒業）就職状況

2014年度（2015年3月卒業生）の就職環境については、企業の収益拡大や株価上昇にみられるように、昨年から引き続きアベノミクス効果による企業業績を背景に堅調な結果が表れ、景気回復とともに各社の採用意欲は高くなりました。これは、表1のとおり、大卒求人倍率が、2013年度1.28倍から2014年度1.61倍になったことから推察されます（2015年度は1.73倍）。

大手企業からの内定取得の時期が昨年よりもさらに早期化したことにより、複数社から内定を獲得した学生が増加した傾向にあります。その結果、中堅中小企業のなかには大手企業に人材が流れたこと等を背景に採用活動が難航し、長期化を強いられるケースが目立ちました。

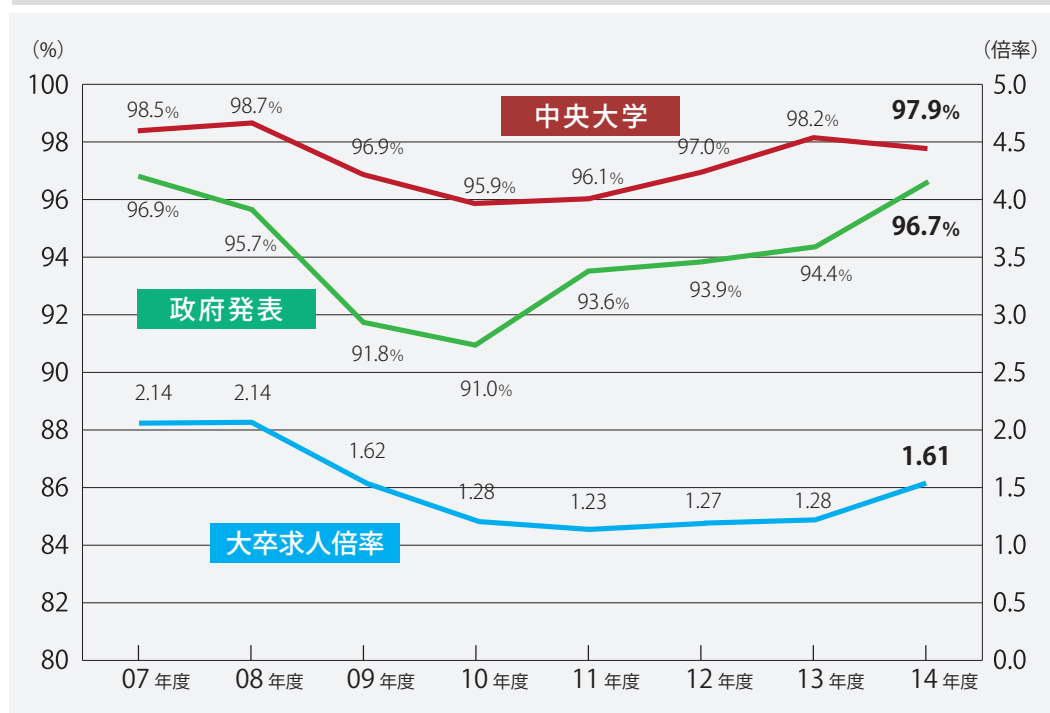
このような状況のなか、本学の就職状況は、表2のとおり、就職決定率97.9%（昨年度98.2%）という実績となりました。就職決

<表2> 2014年度（2015年3月卒業生）進路調査による本学学部学生就職決定率

	就職決定率【就職者÷就職希望者数】		
	男子	女子	男女合計
文理合計	97.7%	98.3%	97.9%
昨年同時期	97.8%	98.8%	98.2%

定率とは、2014年度（2015年3月）卒業生を対象として、そのうち就職を希望したものを分母とし、就職を果たしたものを分子として算出しています。前年度から0.3ポイント減少の要因として、景況感の高まりからか、前年度より卒業決定者が226人、就職希望者は352人増加しており、就職希望者のうちの無業者（アルバイト・家事手伝い等）も19人（前年度72人→今年度91人）増加したことが考えられます（表3）。

<表1> 就職決定率と大卒求人倍率の推移



また、各企業の採用意欲が高くなるなかで、学生も納得するまで就職活動をする傾向が見受けられ、今年度は卒業して既卒枠で就活を目指す卒業生が増えているとも考えられます。

今後は就職決定のなかで、就職先満足度を高めるために、キャリアセンターとしてきめ細やかなキャリア教育プランを充実させなければならぬと考えます。

<表3> 学部別進路状況

		法学部		経済学部		商学部		文学部		総合政策学部		理工学部		合計		
		計	女	計	女	計	女	計	女	計	女	計	女	計	女	
卒業決定者数		1,384	493	1,004	309	1,173	424	1,058	603	274	140	905	159	5,798	2,128	
就職希望者	就職決定者															
	企業	729	297	705	229	889	348	705	443	192	109	459	99	3,679	1,525	
	公務員	251	89	59	13	66	18	76	42	17	7	36	4	505	173	
	公立教員	2				1		27	8			20	1	50	9	
	私立教員	1		4	1	1		12	4			8	2	26	7	
	計	983	386	768	243	957	366	820	497	209	116	523	106	4,260	1,714	
	無業者	11	3	15	6	22	9	19	7	7	3	17	2	91	30	
	計	994	389	783	249	979	375	839	504	216	119	540	108	4,351	1,744	
就職決定率(%)		98.9	99.2	98.1	97.6	97.8	97.6	97.7	98.6	96.8	97.5	96.9	98.1	97.9	98.3	
非就職希望者	進学者															
	本学大学院	11	5	9	3	6	3	23	8	6	2	263	30	318	51	
	他大学大学院	12	4	10		8	1	18	8	12	5	52	11	112	29	
	本学ロースクール	83	16	1				1	1					85	17	
	他大学ロースクール	120	35	1	1									121	36	
	本学専門職大学院					1	1							1	1	
	他大学専門職大学院	6		1		7	2	4				1		19	2	
	その他	3	2			1		10	3	3	1	1		18	6	
		計	235	62	22	4	23	7	56	20	21	8	317	41	674	142
	留学者	7	3	4	3	3	2	8	5	4	4	4	2	30	19	
受験準備者	48	14	30	8	50	9	34	15	7	2	14	3	183	51		
無業者	8	1	17	6	27	7	23	12	3	1	10	2	88	29		
自営業者	6		6		10	1	5	1			1	1	28	3		
	計	304	80	79	21	113	26	126	53	35	15	346	49	1,003	244	
進路不明者		86	24	142	39	81	23	93	46	23	6	19	2	444	140	

2015年4月22日(確定版)

4年生(2016年3月卒業予定)の就職活動時期の変更について

現在の4年生より、就職活動の時期が変更されました。日本経団連が公表した「採用選考に関する指針」および就職問題懇談会のガイドラインによると、採用に関する広報活動開始時期が12月から3月へ、面接などの選考開始時期が4月から8月へ、それぞれ後ろ倒しされました。この背景にあるものは、「就職活動の早期化と長期化は学生に大きな負担をかけ、学力低下、人間的成長の不足などの弊害がある」という懸念です。

しかし実際に企業、学生が活発に動き出した現状をみると、3月広報活動開始は守られるも、各々の判断によって採用時期を決めている企業も多数みられ、さらに採用選考形態

も多様化しており、新しい採用スケジュールに足並みがそろっていない状況となっています。この変更により、メリット、デメリット、両方が考えられるなか、これまで以上に学生自身が学生生活を通じ、将来を見通した「自分らしい生き方」(＝キャリア)を見いだす行動が求められると思われます。

キャリアセンターでは、卒業後のキャリア形成を低学年から動機付けさせることで、キャリア・ベーシック、キャリア・アドバンス等さまざまなイベントへの参加を促し、学生自身が満足のいく進路を選択できるようにサポートを行っています。

インターンシップの推移

インターンシップは、大学で学んだことを社会でどう生かせるかを体験する、また、将来の職業選択のために就業を体験することです。多くは夏休み、春休みなど長期休暇中に5～10日間行われますが、1か月以上のところもあります。

参加形態としては、職場体験型、グループワークによる課題取組型が主流となっています。さらに、就職活動が8月に面接解禁になっ

たことにより、採用選考と連動したインターンシップを行う企業や授業期間中の休日を利用して行う企業なども増えてきており、内容の多様化も進んでいます。

インターンシップの目的は次のように分類されます。①職業観の醸成。大学で学んだ知識、スキル、資格などを実社会で応用する。②自己の興味、適性の認識。将来の職業や進路について具体的に考える。③視野、識見の拡大と新たな自己発見。今後の大学生活での新たな分野への挑戦契機とする。

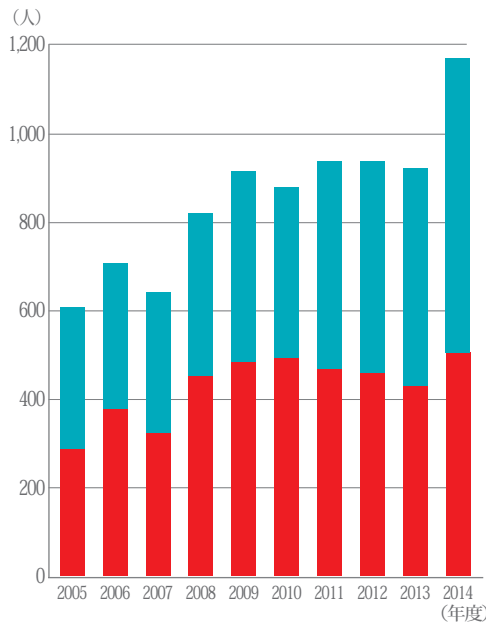
ここで大切なのは、事前に具体的な目標設定を行い、経験から得たことを事後に深化させることです。

インターンシップを経験することにより、社会で活躍するために自分の特性をどのように生かせるか、その後の学生生活で何をどのように習得していくかを知識と行動特性（コンピテンシー：社会で成果をあげることに必要な要素で構成されたもの）を見直すことによりさらに明確化します。そして、社会を見ることを習慣づけるきっかけとなります。インターンシップとその後の学生生活では、PCDAサイクル（目標に対する計画－実行－検証－改善）を回すことによって社会で活躍できる人材に近づく成長ができるようになり、より主体性が高まります。

今後はインターンシップに、より多くの学生の参加、さらにより低学年からの参加を促し、社会を見て働くことを考える契機を促進することが必要となります。

キャリアセンターは学生に対して、ガイダンス等を通じて広くインターンシップの意義や目的などを伝え、参加を促進するとともに、企業・団体と連動したインターンシップの学生への提供を展開しています。

インターンシップ参加者数



■ キャリアデザイン・インターンシップ

本学独自のインターンシップ制度により、働くことを通じて社会の仕組みを理解させるだけでなく、将来の自分について考えるための「気持ち」の機会を提供し、学生生活での目標設定と達成のための取り組みにつなげています。

■ アカデミック・インターンシップ

実習では様々な分野での就業体験を実現させ、ゼミ形式で事前知識を短期間に学習できるという特徴があります。職務体験に加えて総合的な知識・技術を修得することで、卒業後に社会で大きな活躍ができる人材を育成することを最終的な目的としています。